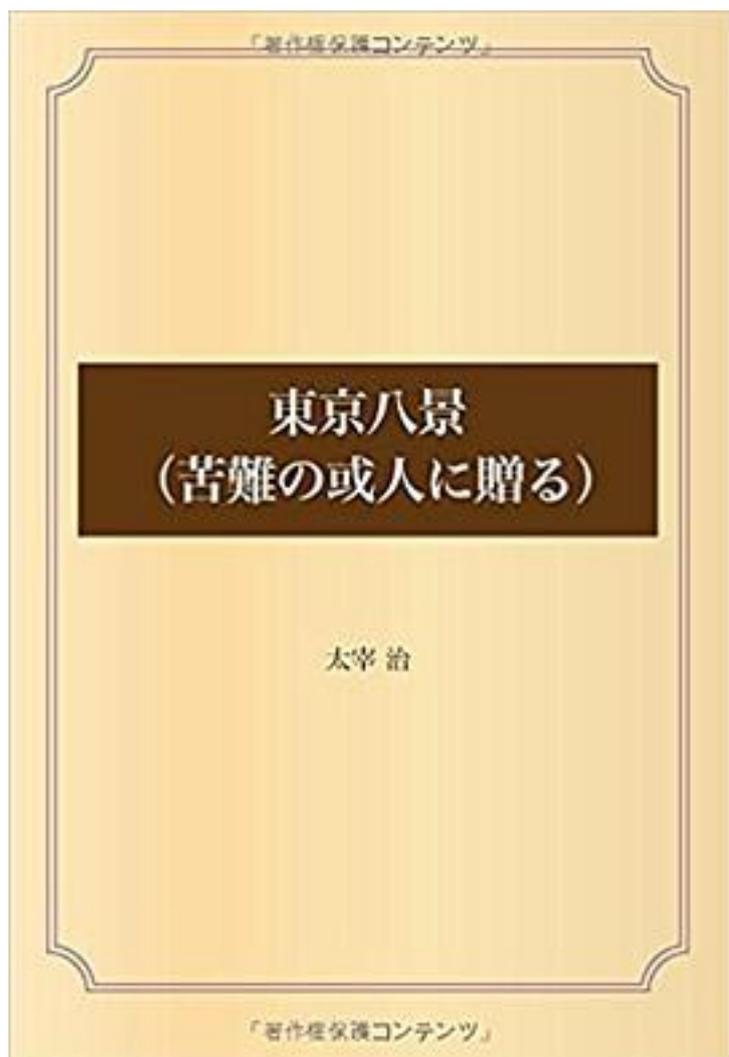


東京八景



[東京八景_下载链接1](#)

著者:太宰治

出版者:

出版时间:2016-7-20

装帧:平装

isbn:9784777148295

作者介绍:

目录:

[東京八景_下载链接1](#)

标签

太宰治

日本文学

无赖派

文学

Wr:太宰治

Tp:小说

Tm:1941

L:日本

评论

之前还以为是类似于介绍河口湖边的什么景点，结果一看发现是太宰治30岁出头时期的碎碎念，其主要核心思想就是我是个LOSER我完了，我好不容易扛下来写了两页小说但人生还是过不下去了.....

苦难自睁眼始，苟活唯有记录

好像是自述

这本书描写的是昭和十五年，太宰在伊豆温泉旅馆回忆自己在东京这些年的经历。所谓的“东京八景”已经不再是风景，而是风景中的他，正如他在书中所说，他的确把自己成功地活成了艺术。

看完了还是不明白东京八景到底是什么。不过是作者絮絮叨叨如流水日记一般的短篇…还是我上传的书目

没有过不去的坎，挺过去，人生照样值得一活。

他的三十岁。可以看到之后人间失格前半段的影子。但已是他的明媚期。原本看他絮絮地念叨着，但是最后东京八景出来的一刹那震颤到了，其实都是他落魄过的地方，多么辛酸。

もう青春を失ったのだ。もっともらしい顔の三十男である。東京八景。私はそれを、青春への訣別けつべつの辞として、誰にも媚こびずに書きたかった。

私は、その三十歳の初夏、はじめて本気に、文筆生活を志願した。

生きて行く為に、書いたのだ。

この場合、芸術になるのは、東京の風景ではなかった。風景の中の私であった。芸術が私を欺いたのか。私が芸術を欺いたのか。結論。芸術は、私である。

戸塚の梅雨。本郷の黄昏。神田の祭礼。柏木の初雪。八丁堀の花火。芝の満月。天沼の蝸。銀座の稲妻。板橋脳病院のコスモス。荻窪の朝霧。武蔵野の夕陽。

@2019-03-28 22:44

自叙传

他的三十岁。可以看到之后人间失格前半段的影子。但已是他的明媚期。原本看他絮絮地念叨着，但是最后东京八景出来的一刹那震颤到了，其实都是他落魄过的地方，多么辛酸。

もう青春を失ったのだ。もっともらしい顔の三十男である。東京八景。私はそれを、青春への訣別けつべつの辞として、誰にも媚こびずに書きたかった。

私は、その三十歳の初夏、はじめて本気に、文筆生活を志願した。

生きて行く為に、書いたのだ。

この場合、芸術になるのは、東京の風景ではなかった。風景の中の私であった。芸術が私を欺いたのか。私が芸術を欺いたのか。結論。芸術は、私である。

戸塚の梅雨。本郷の黄昏。神田の祭礼。柏木の初雪。八丁堀の花火。芝の満月。天沼の蝸。銀座の稲妻。板橋脳病院のコスモス。荻窪の朝霧。武蔵野の夕陽。

@2019-03-28 22:44

太宰治的真诚得到体现 面对过去的顽劣自己 不加掩饰的进行叙述
这也是他内心柔情的流露吧

「人はいつの間にか、違う野原を歩いている。」太宰って、素直だなーとびっくり。
これほど自分の事を隠さずに書くとはね。おかげで彼の事をもっと理解することが出来たかも。人生の転機は不思議なもんだ。

大三上读。三篇集合。

太宰治：我太难了，过不下去。翻页。太宰治：还是撑一撑吧。翻页。太宰治：我还是放弃吧。

[東京八景_下载链接1](#)

书评

[東京八景_下载链接1](#)